

茨城県におけるSDGsへの取り組み — 自治体・大学・企業例の紹介と比較検討 —

筑波総研株式会社 客員研究員
(産業技術総合研究所)

木村 行雄

1. はじめに

SDGs(Sustainable Development Goals—持続可能な開発目標)のカラフルなアイコンが、日常の様々な機会で見られるようになった。おそらく、SDGsを見たことも聞いたこともないといった人は、かなり少なくなったのではないかと思う。

SDGsの達成には、政府から個人まで、様々な主体による積極的な取組が求められており、今回は、茨城県におけるSDGsに関連する取組を紹介し、その特徴を示したい。

まず初めにSDGsの17の目標をおさらいし、次に茨城県と県内自治体の事例、県内大学の事例、県内企業等の事例を紹介し、最後に自治体・大学・

企業等が目指している目標の違いや茨城県におけるSDGsに向けた状況をまとめる。

2. SDGsとは

SDGsとは、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた国際目標で、2030年までに「誰一人取り残さない」社会を実現することを目指し、17の目標(ゴール)と、さらに細分化された169のターゲットを設定している。具体的な17の目標については次の通りである。

持続可能な世界を実現するための17の目標(ゴール)

- | | |
|--|---|
| <p>1. 【貧困をなくそう】
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p> <p>2. 【飢餓をゼロに】
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p> <p>3. 【すべての人に健康と福祉を】
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p> <p>4. 【質の高い教育をみんなに】
すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> <p>5. 【ジェンダー平等を実現しよう】
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p> <p>6. 【安全な水とトイレを世界中に】
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p> <p>7. 【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p> <p>8. 【働きがいも経済成長も】
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p> <p>9. 【産業と技術革新の基盤をつくろう】
強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p> | <p>10. 【人や国の不平等をなくそう】
各国内及び各国間の不平等を是正する</p> <p>11. 【住み続けられるまちづくりを】
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p> <p>12. 【つくる責任つかう責任】
持続可能な生産消費形態を確保する</p> <p>13. 【気候変動に具体的な対策を】
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p> <p>14. 【海の豊かさを守ろう】
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p> <p>15. 【陸の豊かさを守ろう】
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p> <p>16. 【平和と公正をすべての人に】
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p> <p>17. 【パートナーシップで目標を達成しよう】
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p> |
|--|---|

出所：総務省HP https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html

3. 自治体におけるSDGsへの取組

(1) 茨城県の総合計画

自治体におけるSDGsでは、まず、茨城県の総合計画を紹介する。

2018年6月、「茨城県総合計画～『新しい茨城』への挑戦～」が公表された。茨城県では2011年、2016年に総合計画を立て、将来にわたる茨城の姿を示した。さらに2018年における計画の中では、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現を基本理念に掲げ、県民とともに「新しい茨城」づくりに挑戦することを謳っているが、そこでこのSDGsに向けた取組が取り上げられた。

茨城県にとって、SDGsの達成は重要な視点であり、具体的には「第3部 基本計画」において、基本理念の実現に向けた「4つのチャレンジ」を示し、それぞれに5つの「挑戦する政策」（合計20の政策）を掲げた。以下がその政策である。

- ◇**チャレンジⅠ「新しい豊かさ」**
 - ①質の高い雇用の創出
 - ②新産業育成と中小企業等の成長
 - ③強い農林水産業
 - ④多様な働き方
 - ⑤かけがえのない自然環境の保全・再生
- ◇**チャレンジⅡ「新しい安心安全」**
 - ①県民の命を守る地域医療・福祉
 - ②健康長寿日本一
 - ③障害のある人も暮らしやすい社会
 - ④安心して暮らせる社会
 - ⑤災害に強い県土
- ◇**チャレンジⅢ「新しい人財育成」**
 - ①次世代を担う「人財」
 - ②魅力ある教育環境
 - ③日本一、子どもを産み育てやすい県
 - ④学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ茨城
 - ⑤人権を尊重し、多様性を認め合う社会
- ◇**チャレンジⅣ「新しい夢・希望」**
 - ①魅力度No.1プロジェクト
 - ②世界に飛躍する茨城へ
 - ③ピジット茨城～新観光創生～
 - ④茨城国体・障害者スポーツ大会、東京オリンピック・パラリンピックの成功
 - ⑤活力を生むインフラと住み続けたいくなるまち

また、これら20の政策それぞれについて、SDGsの17の目標との関連を示した(1つの政策について複数のSDGsの目標を関連づけている)。

表1は、それらを集計したものである。

最も多かったのは、**目標17【パートナーシップで目標を達成しよう】**で、20の政策すべてに関連している。2番目に多かったのは、**目標8【働きがいも経済成長も】**で、17の政策に関連、3番目は**目標4【質の高い教育をみんなに】**で、16の政策に関連している。

(2) SDGs未来都市(つくば市・境町)

次に県内の自治体の具体的な事例を2つ紹介する。

国(内閣府)は、自治体によるSDGsの取組を推進するため、2018年以降、「経済」「社会」「環境」の3側面における新しい価値創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い124の都市・地域を「SDGs未来都市」として選定してきた。2018年は29都市、2019年は31都市、2020年は33都市、2021年は31都市が選定されており、茨城県では2018年につくば市が、2021年には境町が選定されている。



写真：つくば市(つくば駅周辺)

表1: 茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～「第3部 基本計画」から筆者集計

4つのチャレンジ	SDGsの目標番号																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
I 「新しい豊かさ」	0	1	1	5	1	2	1	5	4	1	3	2	2	2	0	5	
II 「新しい安心安全」	0	0	4	4	0	2	0	3	2	4	3	1	2	1	1	2	5
III 「新しい人財育成」	1	0	2	5	1	0	0	4	2	3	2	0	0	0	0	1	5
IV 「新しい夢・希望」	0	0	1	2	0	0	0	5	2	2	3	0	0	0	1	0	5
各目標合計数	1	1	8	16	2	4	1	17	10	10	11	3	4	3	4	3	20

つくば市は、2018年2月19日、2030年のあるべき姿として持続可能な都市の実現を目指すため「持続可能都市ビジョン」を公表した。同年6月、SDGs未来都市に選定され、同年9月には計画期間を3年間とする「つくば市SDGs未来都市計画」を策定した。

本計画では、持続可能都市ビジョンの実現に向けて、社会・経済・環境の3側面からのアプローチを重視しながら、つくば市としての強みや優先課題を考慮し、今後の取組の方向性について、次の5つの柱立てを行った。

- ①こどもの未来(Child)
- ②包摂的な社会(Inclusive)
- ③価値の創造と継承(Value)
- ④誰もが使いやすいインフラ (ユニバーサルインフラ) (Infrastructure)
- ⑤ 循環と環境保全(Circulate)

これらの5つの頭文字から命名した「CIVIC事業」は、持続可能な都市の実現のため、優先的に実施した。また、上記計画を引き継ぎ、2021年3月に「つくば市SDGs未来都市計画(2021～2023)」を策定した。

境町は、2021年5月にSDGs未来都市に選定された。国の選定にあたって境町が提出した提案書によると、2030年のあるべき姿を「誰もが明るい未来を描きながら暮らすことができる街 さかい」として、現在展開中の「自動運転バス」「先進的英語教育」「日本一を目指す子育て政策」「再生可能エネルギー活用」「北関東初のPFI住宅整備」「まちごとまるごと子ども食堂」などの様々な施策を、SDGsを活用することでさらに発展・浸透させ、「誰もが交通の足に困らない町」「安心して暮らし続けることのできる町」「活気ある経済活動の町」を実現するとしている。

4. 大学による取組

学校でSDGsに取り組んでいる事例が、国内にも多数存在する。今回は、茨城県の3つの大学における取組を紹介する。

(1) 筑波大学

筑波大学では「研究戦略イニシアティブ推進機構」(以下、OSI)がSDGsについての取組状況を発表している。そのホームページにおいて、永田恭介学長は次のように述べている。「最も大切なことは、筑波大学の取組にSDGsを当てはめるのではなく、SDGsにどれだけ大学が貢献できるか、ということです。(中略)SDGsの次にくるものは何か、すなわち「Beyond the SDGs」を探求する文理横断的な大学の活動が必要です。」



写真：筑波大学高細精医療イノベーション棟

OSIは、ホームページで大学での取組を紹介しているが、「学生の取組」6件、「研究プロジェクト」51件について、それぞれの取組内容とSDGsの目標との関連を掲載している。それぞれの取組の中で関わりの大きいSDGsの目標を「中心となる目標」とし、それ以外の目標を「関連する目標」と区分しており、ホームページ上ではアイコンの大小で表現している。

表2: 筑波大研究戦略イニシアティブ推進機構Beyond the SDGs H Pより筆者集計

学生の取組によるテーマ	17の目標のうち掲げられた目標 (太字は「中心となる目標」)																
使い捨てコンタクトレンズを用いたリサイクル									12	13							
SDGsを用いた、地域に開かれた学びの場の形成		4															17
食事とスポーツを通じた大学を中心とした持続的な地域社会づくり	3	4	5	6	8			11	12								
子育て負担による不平等社会の解消を目指した学生活動	3	4	5				10										16
県外・海外出身住民にとって、つくばが故郷になる祭りを							10	11									16 17
吃音のある子どもたちの学校生活をサポートする取り組み	3	4															

表2(前ページ下の表)は、学生の取組6件の、中心となる目標と、関連する目標をテーマごとに並べたものである(この学生の取組に関しては、すべての事例で学生と教員双方が関わっているものであり、学内の所属では医学医療系、人間系、人文系が多いことが分かっている)。

中心となる目標では、**目標4【質の高い教育をみんなに】**と**目標11【住み続けられるまちづくりを】**が多く、関連する目標を加えると**目標4【質の高い教育をみんなに】**が最も多く、次に**目標3【すべての人に健康と福祉を】**が多いことが分かる。

研究プロジェクトは、それぞれ「中心教員」「他の教員」「学生等」で構成されている。ホームページで紹介されている51件のうち、中心教員の所属は生命環境系が11件で最も多く、他では数理物質系が6件、生存ダイナミクス研究センターが6件、体育系が5件、計算科学研究センターが5件、システム情報系が5件、医学医療系が4件、人間系が4件などとなっている。

表3は、これら51件の研究プロジェクトとSDGsの目標との関連を集計したものである。結果として、中心となる目標では、**目標3【すべての人に健康と福祉を】**が18件で最も多く、**目標11【住み続けられるまちづくりを】**、**目標9【産業と技術革新の基盤をつくろう】**が続く。関連する目標では、**目標9【産業と技術革新の基盤をつくろう】**が21件で最も多く、**目標13【気候変動に具体的な対策を】**、**目標15【陸の豊かさを守ろう】**が続く。

(2) 茨城大学

茨城大学は、2020年4月に就任した太田寛行学長が、国連が掲げるSDGsを大学改革の旗印とすることを宣言し、それを加速させるため、新たにSDGs推進担当の学長特別補佐を置いた。同年同月、その補佐が中心となり、気候変動の分野の教育研究拠点として、「地球・地域環境共創機構」(以下、GLEC)を設立した。

GLECでは、①茨城大学iOP (internship Off-campus Program) の認定プログラムとして実施(2020年12月、一般財団法人日本国際協力センターが協力)、②農学部「農学入門Ⅱ」の授業を実施(**目標12【つくる責任つかう責任】**、**目標17【パートナーシップで目標を達成しよう】**を目指す。いばらきコープが協力)など、他の機関との連携による授業プログラムもある。



写真：茨城大学(水戸市)

(3) 常磐大学

常磐大学では、2019年9月「国連アカデミック・インパクト(United Nations Academic Impact)」に加盟し、世界各国の高等教育機関や国際機関などと連携しながら、国際社会が直面する諸問題の解決を目指し、全学的に取り組んでいくことを富田敬子学長が表明し、その一環として、SDGsへの取り組みを行っている。具体的には、①情報メディアセンター(図書館)における「SDGs関連図書」の展示企画、②教員によるSDGsを学ぶ英語教科書の出版、③教養科目における「生態学(生態学入門)」(**目標14【海の豊かさを守ろう】**、**目標15【陸の豊かさを守ろう】**を目指す)、「物質とエネルギー(地球システム科学入門)」(**目標7【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】**、**目標13【気候変動に具体的な対策を】**を目指す)の実施、などである。

表3: 筑波大研究戦略イニシアティブ推進機構Beyond the SDGs H Pより筆者集計

	SDGsの目標番号																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
中心となる目標	0	2	18	4	0	3	3	1	5	0	6	2	2	3	1	0	1
関連する目標	3	2	8	8	4	4	10	4	21	5	7	6	15	4	11	2	1
合計	3	4	26	12	4	7	13	5	26	5	13	8	17	7	12	2	2

5. 企業等による取組

(1) つくばSDGsパートナーズ

前述の通り、つくば市は、2018年2月に持続可能都市ビジョンを発表したが、2019年4月には市民や事業者、大学・研究機関、団体、行政等の各主体が連携を図りながら、持続可能なまちづくりのための様々な取組を自主的、自発的に実施していく組織として、「つくばSDGsパートナーズ」を発足させた(つくば市役所 政策イノベーション部 持続可能都市戦略室が運営)。

ここには98の団体が会員として参画(2021年8月20日現在)しており、企業等が58、特定非営利法人やNPOが19、学校等が9、金融機関が6、社団法人が6で構成されている。

各団体はそれぞれ「関心のあるゴール」としてSDGsの17の目標の中から(最大3つ)選択し、目標実現のための具体的な取組を公表している。表4は、会員が選択した目標を団体の属性別に集計したものである。

選択した目標は、企業等では目標11【住み続けられるまちづくりを】が最も多く、目標12【つくる責任つかう責任】、目標8【働きがいも経済成長も】が続く。特定非営利法人やNPOでは目標3【すべての人に健康と福祉を】が最も多く、目標11【住み続けられるまちづくりを】と目標17【パートナーシップで目標を達成しよう】が続く。学校等では目標4【質の高い教育をみんなに】が最も多く、金融機関では目標8【働きがいも経済成長も】と目標9【産業と技術革新の基盤をつくろう】が最も多かった。

(2) 全国と県内の中小企業

SDGsに関する企業の見解について、帝国データバンクが発信している調査(2020年、SDGsに関する企業の意識調査)を取り上げる。この調査結果は全国版と都道府県版双方が存在するため、比較することができる。

調査期間は2020年6月17日~30日、調査対象は全国2万3,681社(茨城県371社)で、有効回答企業数は1万1,275社(回答率47.6%) (茨城県172社(回答率46.4%))であった。

自社におけるSDGsへの理解や取組について、「①意味および重要性を理解し、取り組んでいる」企業は全国8.0%に対し、茨城県は4.7%と少ない。「②意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている」企業は全国16.4%に対し、茨城県は21.5%と多い。①と②を合わせると、全国では24.4%、茨城は26.2%となる。全国及び茨城県どちらにおいても、中小企業の4分の1程度はSDGsの重要性を理解しているが、実際に取り組んでいるかどうかという点では、茨城県は若干遅れていると考えられる。

SDGsの17の目標のうち現在力を入れている項目(複数回答あり)については、目標8【働きがいも経済成長も】が27.1% (茨城県30.2%)でトップであった。2位は目標7【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】で15.9% (茨城県21.5%)、3位は目標12【つくる責任つかう責任】で14.8% (茨城県16.3%)。

茨城県は1位・2位は全国と同じであったが、第3位は目標11【住み続けられるまちづくりを】19.2% (全国12.8%)であった。目標11が上位に入る理由としては、東日本大震災や2019年の台風19号の被害などの影響が考えられる。

表4: つくばSDGsパートナーズHPから筆者集計

	会員数	選択した SDGs の目標																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
企業等	58	3	5	9	13	5	2	13	19	9	3	23	22	11	6	4	2	14
特定非営利法人・NPO・団体	19	2	1	9	4	3	1	2	3	3	1	7	3	0	1	2	2	7
学校等	9	2	2	2	6	1	0	1	0	2	2	2	0	1	0	0	2	2
金融機関	6	2	0	2	1	0	0	1	4	4	0	1	0	1	0	0	0	2
社団・財団法人	6	1	0	2	1	1	0	0	1	0	1	2	0	1	0	0	1	2
合計	98	10	8	24	25	10	3	17	27	18	7	35	25	14	7	6	7	27

6. おわりに (各主体の比較)

本稿では、茨城県におけるSDGsに関する取組事例を紹介してきた。表5は、今回紹介した集計データから、それぞれ上位となった部分を着色したものである。

全体として上位に位置づけられたのは目標11【住み続けられるまちづくりを】であり、目標8【働きがいも経済成長も】が続いている。その他に上位に挙げられたのは、目標3【すべての人に健康と福祉を】、目標4【質の高い教育をみんなに】、目標7【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】、目標9【産業と技術革新の基盤をつくろう】、目標12【気候変動に具体的な対策を】、目標17【パートナーシップで目標を達成しよう】であった。

目標11【住み続けられるまちづくりを】について、ほとんどの主体が上位に位置づけていることは興味深い。企業、大学、NPOなどの存在意義や目的が異なることから、それぞれのまちづくりが目指すものも異なると考えられるが、多様な方向性でより良いまちづくりを目指していくことは、誰にとっても良いまち(誰一人取り残さないまち)に繋がっていくことが期待できる。ここでは目標17【パートナーシップで目標を達成しよう】が重要になるだろう。

また、上位に位置づけられなかった目標(下表で着色の無い部分)も多い。しかし、表1、表2、表3の集計をみると、17の目標全てが選択されている。筑波大学では「中心となる目標」と「関連する目標」という考え方で、取組(研究)とSDGsを関連付けているように、一つの取組が一つの目標だけに関わるものではないことから、SDGsを目指した多様な取組が行われていくことで、すき間が埋まるようにSDGsが達成されていくことが期待できる。

さらに、帝国データバンクによる企業の意識調査において、「意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている」企業、言い換えれば、「重要性は理解しているが取組んでいない企業」が21.5%もあることを考えると、今後茨城県でのSDGsが急速に普及していくことも期待できるだろう。

<主要参考文献>

総務省ホームページ

https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html

茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/kikaku/seisaku/sogokeikaku18.html>

筑波大研究戦略イニシアティブ推進機構Beyond the SDGs ホームページ

<https://www.osi.tsukuba.ac.jp/sdgs/>

つくばSDGsパートナーズ ホームページ

<https://www.tsukuba-sdgs.jp/index.html>

帝国データバンク SDGsに関する企業の意識調査(2020/7/14)

[全国版]

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/p200708.html>

[茨城県版]

https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s200703_25.html

表5：今回紹介した集計のうち上位に位置する目標

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
茨城県総合計画				■				■									■
筑波大学 (学生の取組、中心となる目標)				■							■						
筑波大学 (研究プロジェクト、中心となる目標)			■						■		■						
つくばSDGsパートナーズ (特定非営利法人等)			■								■						■
つくばSDGsパートナーズ (企業等)								■			■	■					
帝国データバンク調査 (茨城県企業)							■	■			■						